

「百人一步」通信

「一人の百歩より百人の一步」の社会を作ろう

今井和夫とともに歩む

「百人一步の会」

代表 今井和夫

〒671-3211

兵庫県宍粟市千種町岩野辺 1065

090-9610-2511

hyakunin-ippo@imaifarm.jp

ごあいさつ

私は、宍粟市千種町岩野辺に住む今井和夫と申します。

平成元年に農業を志し家族で新規就農いたしました。

○安全な食べ物を食べたい、広めたい。

○衰退する農業や地方を大事にしたい。

○すべての物差しが「おカネ」の世の中に疑問を感じ、自然・人・命を大事にする生き方をしたい…。

その時は大阪に住んでいたのですが、2才の長女が普通の落ち葉を一枚拾ってきて、とっても嬉しそうに私に見せてくれました。それでハッとしたのです。「そうか、ここにはホントに自然がないんだ〜。自然の中で大きくしてやりたい。この子にとっては今しかない〜」そんな思いでした。

温かく受け入れてくださった地域の皆様

全く見ず知らずの私達を、地域の方は温かく受け入れてくれました。「いい空き家がないんだったらここに家を建ててもええよ」そんなことまで言っていただきました。ホントに今思えば、信じられないありがたさです。

それで、自分たちでまず家を建てました。素人ですが業者の方に教えてもらいながら、地域の人に手伝ってもらいながら建てました。数々の台風にも負けず、今でもちゃんと建っています。(笑)

そして、翌年から3年かけて鶏舎を建てました。当時はまだまだ地域も元気で、建て替える家がたくさんあり、古材をふんだんにもらえました。

アルバイトも何でもさせてもらいました。アルバイトをしながらいろんなことを教えてもらいました。ブロックの積み方、水道工事、大工、家の基礎!!……。いろんな方々にお世話になりました。

念願だった田んぼと畑もさせてもらいました。自分で作ったコメや野菜のおいしいこと。売っているどんなにいいものよりもおいしく愛おしいものでした。

ブトの洗礼も受けました。最初の一年間はブトに刺されると顔や手が腫れ上がりました。タオルをまいて目だけ出して畑をしてました。そのわずかな隙間からも刺されました。でも、二年目からは不思議と腫れなくなりました。腫れなくなったらあまり刺されなくなりました。ブトも少しは受け入れてくれたのでしょうか?

ニワトリ始める

鶏舎を建て、平飼い自然養鶏を始めました。

なぜニワトリかというと、私のように、土地もカネも技術もないものが一番入りやすく、また、卵は日持



ちするので消費地から離れた所でも作りやすく、また、安全でおいしい卵は市販のものより高価でも何とか売れるからでした。

初めは「ホントにこの子達(ニワトリ)、卵産むのかなあ?」と不安に思いましたが、5ヶ月たてばちゃんと卵を産んでくれました。初めての卵はお世話になった方々に配り回りました。

鶏舎建設が間に合わずニワトリが病気になったことや、クマやイタチ、キツネに入られたことや、いろいろとありましたが、少しずつ技術もついてきたのか、ツヤツヤの鶏たちのおいしい卵が採れるようになりました。

ニワトリの解体も始める

10年前からニワトリの自家解体も始めました。

人間は他の命を食べてしか生きられません。私達のためにしっかり大きくなってくれ、いい卵を産み続けてくれた子たちの最期は、やっぱり自分で手をかけたい。一番しんどいところを他人任せにするのはニワトリに申し訳ない。ずっとそう思ってきて、いよいよ始めました。

中学生のトライやるウィークで、最終日に鶏の解体をするのですが、泣き出す女の子もいます。残酷なことをしてるんだなあと思ったりしますが、そのあとのバーベキューではみんな「おいしい」って食べてくれます。生きるってそういうことなんですよ。

昔、聞いたことがあるのですが、「アメリカ先住民は自分で絞めた動物の肉しか食べなかった」と。それは、きっと、それがその動物に対しての礼儀だと思ってることなんでしょう。